



県立千種高等学校の回想

初代校長 吉田太郎

山崎高校千種分校が独立し、今日の発展を見るとき、心からお喜びを申しあげると共に、ここまでくるため地元の方々、卒業生のみなさん、教職員の方々、その他関係各位の、筆舌に尽くしがたい、ご努力、ご尽力に対し敬意を捧げます。

私が本校へ初代校長として赴任したのは、昭和50年4月ですが、以後の3年間は、私の教職員生活の最後のめまぐるしく、あわただしい、それだけにやりがいもあった日々でした。

4月2日、校章選定委員会、4月8日には、桜井学校教育課長他の来賓を招き、開講式、入学式、始業式を挙行了しました。生徒の顔は、喜びと希望に輝いていました。6月29日白井教育委員、小川・川端両県会議員を来賓として迎え、開校記念式典を盛大に挙行了しました。

校章、校旗の披露、記念行事として、

- (1) 作陽音楽大学三浦暁子教授のピアノ演奏、
- (2) 藤原歌劇団の吉井久美子さんの歌曲、
- (3) 中京大学深江教授と体操部員の体操模範演技など、洗練された演技を満喫しました。

昭和50年11月の荘村清志のギターリサイタルは生徒にとり、忘れ得ない思い出になったと思います。

11月30日、開校記念日を1月14日に定め51年2月25日には県立千種高等学校第1回卒業証書授与式を挙行了しました。そして3月17日には入学者選抜学力検査を実施しました。

以上、年史的にめまぐるしく、あわただしい独立後の行事を記しました。

校務運営上心がけたこと、よい思い出として残っていること、解決に苦勞したことについて若干のべてみたいと思います。

生徒は純真素朴で、教職員は地元の方が多く分校以来の勤務で、生徒指導の面でも生徒の扱いが適切で、新しい校風樹立が可能であったとともに、若い教職員が多く、危惧する面もありました。

三室高原でのキャンプ、南光町の瑠璃寺における合宿訓練は、今なおなつかしく思い出されます。

私が赴任する以前に地元の熱烈な要望により、野球部の創設が決定しており、予選出場の練習を雨のため体育館で行い、投手が負傷したこと。他校生徒が単車で乗りつけ誘い出したこと。教職員の校内研究授業の開催。校内諸施設の改修など問題が山積していました。中でも最も力を注いだのは、僻地の人事交流の機会の少ない教職員の異動でした。

初代校長として、校務運営について教職員のみなさんや、当時の梅谷・児島両教頭さん、また竹内事務長さんのご尽力がなければ、諸事不慣れで、気ばかり焦っていた私では対処できなかったと、しみじみ有り難く思い出しています。

千種高校も独立高校として新興の意気高く、前進すべき時期に入りました。

上山校長先生のもとに輝かしい前途を、心より祈念いたしております。